

# キウイフルーツかいよう病 (Psa3) の病徴モニタリング II 発芽期以降

春季は感染のリスクが非常に高い時期となるため、園地のこまめなモニタリングが重要である。  
他の病害などで類似した症状があるため、最終的な判断は遺伝子診断で行うこととしている。

時期	モニタリングする症状	備考
春	葉の褐色斑点 樹液の流出(白または赤色) 花蕾(花)の褐変 新梢、結果母枝のしおれ、枯死	○葉のハロー(病斑部周辺の黄色部)は小さい傾向。 ○葉裏に樹液の流出痕が確認される。 ○レインボーレッドやHort16Aでは樹液流出、花蕾の褐変が Hayward に比べて顕著。
夏	葉の褐色斑点 結果母枝の枯死 果実のしなび	○高温のため、新たな発病は少ない。

